

(別紙様式3)

令和7年度あいちラーニング推進事業研究報告書【主管校】

学校番号 14
学校名 愛知県立名古屋西高等学校
校長氏名 前野 恵

研究責任者職・氏名	教頭 ・ 伊藤 智	事務担当者職・氏名	事務長 ・ 林 圭一
研究テーマ	探究学習のさらなる普及による「主体的・対話的で深い学び」の推進		
本年度の研究目標	(1) 変化の激しい時代を生き抜く力を育むために、各教科で探究学習を意識した授業を行い、生徒が自分にできることは何かを考え、学び、実行する力を養成する。 (2) ICT活用の特性を生かし、「主体的・対話的で深い学び」を推進するとともに、「個別最適な学び」を生徒に見つけさせる。 (3) 学び合いを通して、「協働的な学び」を充実させ、「個別最適な学び」の確立を図る。		
研究の実施内容			
実施月日	内 容	備 考 (対象生徒等)	
5月21日 6月3日	あいちラーニング推進委員会発足 第1回あいちラーニング推進委員会 ・概要説明 ・公開授業日決定	該当教員 該当教員	
6月25日	第2回あいちラーニング推進委員会 ・推進事業研究目標設定 ・予算配分検討 ・研究協議	該当教員	
7月2日	SSH課題研究発表会視察【旭丘高校】	教頭	
7月29日	第1回あいちラーニング連絡協議会 ・主管校現状報告 ・重点校現状報告	該当教員	
9月30日	第3回あいちラーニング推進委員会 ・第4回推進委員会における指導助言者による授業参観及び研究協議会のもち方検討 ・公開授業日について検討 ・合同発表会用資料作成 ・情報交換	該当教員	
10月22日	第4回あいちラーニング推進委員会 ・指導助言者による授業参観(数学Ⅱ・Ⅲ、家庭基礎、言語文化、現代の国語)及び指導・助言、研究協議 指導助言者 名古屋外国語大学 教職センター 大石益美 教授 ・公開授業配布資料等検討	2年8組 (数学Ⅱ・Ⅲ：中條) 1年5組(家庭基礎：浅田)	

		1年2組 (言語文化：青瀧) 1年3組 (現代の国語：上田) 該当教員
10月24日	主管校視察【瑞陵高校】 地理総合、理数情報、調理	該当教員
10月28日	主管校視察【新川高校】 公共、英語コミュニケーションⅡ、言語文化、数学ⅠA、物理基礎	該当教員
11月5日	第5回あいちラーニング推進委員会 ・公開授業及び研究協議会兼第2回連絡協議会に向けて 役割分担、当日日程確認 ・情報交換及び研究協議	該当教員
11月7日	主管校視察【一宮南高校】 論理国語、公共、数学Ⅰ、生物基礎、保健、英語コミュニケーションⅠ	該当教員
12月9日	公開授業及び研究協議会兼第2回連絡協議会 指導助言者 名古屋外国語大学 教職センター 大石益美 教授 愛知県教育委員会高等学校教育課 天羽 康 指導主事 愛知県総合教育センター 学校支援研究課 稲山紀彰 研究指導主事 愛知県総合教育センター 学校支援研修課 加藤真由美 研究指導主事	1年2組 (論理表現：森本) 1年3組 (保健：青田) 1年4組 (言語文化：青瀧) 1年5組 (現代の国語：上田) 1年6組 (家庭基礎：浅田) 1年8組 (歴史総合：菱田) 2年3組 (古典探究：宮下) 2年4組 (論理国語：加賀) 2年7組 (数学Ⅱ・Ⅲ：中條) (英語コミュニケーションⅡ：伴野) 2年8組 (保健：宮河) 3年7組 (化学：梅村)
1月30日	第6回あいちラーニング推進委員会 ・公開授業及び研究協議会兼第2回連絡協議会の振り返り	該当教員

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2年間または1年間を振り返って ・ 情報交換 	
研究成果の評価及び普及・還元に関する実績		
<p>1 今年度の取り組みについて</p> <p>令和6年度に主管校の指定を受け、『探究学習の普及による「主体的・対話的で深い学び」の推進』を研究テーマとして設定した。本校は「探究学習」のプロセスが確立されており、このプロセスを全ての教育活動で生徒に意識させれば、生徒がこれからの変化の激しい、予測困難な時代でも活躍できる力を育成することができると思った結果でのテーマ設定であった。</p> <p>1年間、推進委員の先生方が熱心に研究され、授業改善に取り組まれた結果、各々の先生方の授業が改善され、生徒が「主体的・対話的で深い学び」を実現させる場面が増えてきた。そして、大学教授からの指導助言により、「探究」のゴールは「オリジナルのアウトプット」であることを共通理解として委員の先生方が共有できたことは今後の授業デザインをするにあたって、かけがえのない財産となった。そのなかで、令和7年度に向けた課題も見えてきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 探究的要素を組み込んだ授業は生徒の力になっているという実感があるが、本当にそうになっているのかを客観的に図るツールや方法がない ・ 生徒自身も「思考力・判断力・表現力」を高めたり、探究的に考えられるようになっていくのかを評価する客観的なツールや方法がない ・ 生徒の「個別最適な学び」を導くことができなかった <p>これらの課題を加味し、令和7年度の研究テーマを『探究学習のさらなる普及による「主体的・対話的で深い学び」の推進』と設定した。</p> <p>具体的には</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 変化の激しい時代を生き抜く力を育むために、各教科で探究学習を意識した授業を行い、生徒が自分でできることは何かを考え、学び、実行する力を養成する。 (2) ICT活用の特性を生かし、「主体的・対話的で深い学び」を推進するとともに、「個別最適な学び」を生徒に見つけさせる。 (3) 学び合いを通して、「協働的な学び」を充実させ、「個別最適な学び」の確立を図る。 <p>の3点を研究目標とした。</p> <p>2 連絡協議会</p> <p>(1) 第1回（7月29日開催）</p> <p>主管校である本校と、重点校である明和高校、中川青和高校の3校で開催した。主管校からは、推進委員のうち9名が、探究学習を意識した授業実践の進捗状況や今後の計画を発表した後、重点校からの参加者と質疑応答を交わした。</p> <p>重点校からは「あいちラーニング」推進事業の進捗状況について報告があった。両重点校ともにICT活用を主なテーマとして設定していた一方、生徒同士による対面の言語活動に課題がみられる、と報告したことは、昨今の教育現場における課題が浮き彫りになったようで、興味深いことであった。</p> <p>(2) 第2回（12月9日開催）</p> <p>同日開催の公開授業及び研究協議会と兼ねた。詳しくは後述。</p>		

3 校内推進委員会

今年度は国語、地歴公民、数学、理科、保健体育、英語、家庭から推進委員を選出し、校長、教頭、教務主任、進路指導主事を加えた合計17人のメンバーで推進委員会を立ち上げ、6回の委員会を開催した。

「あいちラーニング」推進事業の概要説明をはじめ、本年度研究目標の周知、探究学習の要素の授業への落とし込み方、評価等についてのディスカッション、情報交換などを行った。

第4回推進委員会は、指導・助言者として名古屋外国語大学教職センターの大石益美教授をお招きし、授業参観及び研究協議会を実施した。授業参観は全職員に向けても公開した。研究協議会において教授から以下の助言等をいただいた。

- ・文章をしっかりと把握できるということは、「総合的な探究の時間」の基盤となる。
- ・教科単独で行うと総合知が付きにくい。複数の教科で横断的にできるとよい。
 - 1 いろいろな授業で同じ教材を扱う場合
 - 2 一つの教材を別の人が一緒に扱う場合例) 英語と世界史が2時間続きで一緒に授業を行う
→世界史の英語の文献を読む際に、英語の先生の指導が入る
- ・国語における「探究」とはプレゼン、読むこと、話し合いなどの基礎スキルを身につけること。それが、「学校全体の探究」のための基盤としてとても大切になってくる。それに伴い、グループ活動が深まり合うようになる。「現代の国語」は「探究」のサイクルを回すというよりは、スキルの習得に重点を置く科目だと考えている。
- ・「探究」としては、正解ではなく、納得解で終わらせる場合もある。
- ・探究の1サイクルはとても時間がかかる一方、授業時間には限りがある。そのため、授業1コマのどの部分を探究のサイクルのどの部分に当てはめるか、のデザインが大切。
- ・「自分の頭で、自分で考える」というのが一番大事だと思うので、生徒から出た疑問を課題発見として、みんなで一緒に考えて解決していくような小さな探究でも「考えさせる」という点で探究的な学びであるといつてよい。

4 公開授業及び研究協議会

12月9日に公開授業及び研究協議会兼第2回連絡協議会を開催した。21校から25名の先生方に参加していただいた。また、大学生も2名参観に訪れた。当日は名古屋外国語大学教職センター 大石 益美 教授、愛知県教育委員会高等学校教育課 天羽 康指導主事、愛知県総合教育センター 学校支援研究課 稲山紀彰研究指導主事、愛知県総合教育センター 学校支援研修課 加藤真由美研究指導主事を指導・助言者としてお迎えした。2時間の公開授業の後、研究協議会を実施した。日程は以下のとおりである。

12:30~13:00	受付
13:00~13:10	日程・概要説明、移動
13:10~14:00	公開授業
①英語・論理表現I	森本 利江 1年2組・HR
②保体・保健	青田 圭弘 1年3組・HR
③国語・言語文化	青瀧 実優 1年4組・HR
④家庭・家庭基礎	浅田 昌美 1年6組・被服室
⑤国語・古典探究	宮下 拳也 2年3組・HR
⑥国語・論理国語	加賀 直人 2年4組・HR
⑦数学・数学III	中條 俊希 2年7組・HR
14:00~14:10	休憩、移動
14:10~15:00	公開授業
①国語・現代の国語	上田 俊博 1年5組・HR
②地公・歴史総合	菱田 隆太 1年8組・HR
③英語・英語コミュII	伴野 礼於 2年7組・HR
④保体・保健	宮河龍之介 2年8組・HR
⑤理科・化学	梅村 賢 3年7組・化学室

15:20~16:20	研究協議会
16:20~16:30	諸連絡

当日出席者に配布した各公開授業の「見どころ」を、ほぼ原文のまま紹介する。

【5限】

- ①森本利江 1-2 論理表現Ⅰ 見所：前半
相手に会話を楽しんでもらうための工夫を考えて、chat で英会話に取り組みます。
- ②青田圭弘 1-3 保健 見所：前半
「事故の現状と発生要因」の授業です。本校の身近な事故について分析し、事故の防止のためにできることをグループで議論します。
- ③青瀧実優 1-4 言語文化 見所：中盤
芥川龍之介「羅生門」と原典・今昔物語集の読み比べから、文学研究を行います。ICT 機器を活用したグループワークを通して視野を広げ、多角的な読みを目指します。
- ④浅田昌美 1-6 家庭基礎 見所：中盤以降
代替食品もとの食品（例えばバターとマーガリン）の違いをグループごとに発表させ、消費者としてどのように加工食品と向き合うのか考えさせます。
- ⑤宮下拳也 2-3 古典探究 見所：中盤以降
性善説と性悪説の導入の授業です。自分で資料をまとめた後にグループで議論をします。資料を読み解く力と伝えあう力を身につけることを目指します。
- ⑥加賀直人 2-4 論理国語 見所：中盤以降
浅田次郎の評論文を使って、和歌が分かることを通した評論の読解を試みます。審美眼を持った者の美しい言葉に触れながら、生徒とともに時間旅行に出かけます。
- ⑦中條俊希 2-7 数学Ⅲ 見所：前半
数学Ⅲ「関数」の演習を行います。自分自身の解いた解答に対して、改めて解答の根拠を補う活動を通して、数学的な根拠をもって解答を作る力の養成を図ります。

【6限】

- ①上田俊博 1-5 現代の国語 見所：中盤
文の役割や重みに注目して評論文の読解を行います。この読解は、授業者が行うのではなく、生徒が協働的・対話的に評論文の読解を行い、要約の完成を目指します。
- ②菱田隆太 1-8 歴史総合 見所：中盤
世界恐慌を軸として、当時の時代の歩みを見ていきたいと考えています。またアウトプットを重視した授業の取り組みもご覧いただければ幸いです。
- ③伴野礼於 2-7 英語コミュⅡ 見所：後半
教科書の本文のリテリングを行います、様々な本文のとらえ方を通して、思考力の養成を目指します。
- ④宮河龍之介 2-8 保健 見所：後半
食物アレルギーについての授業です。前半に調べ学習を、後半は調べたことをもとにプレゼン資料を作成し、残り3分でペアでのプレゼンを行います。
- ⑤梅村賢 3-7 化学 見所：後半
二糖・多糖の加水分解による、ヨウ素デンプン反応とフェーリング液の還元反応の変化を調べる実験を行います。既習の内容によって結果を解釈する他、対照実験の意味など、プラスαの思考を促します。

以下は公開授業と研究協議会の様子。



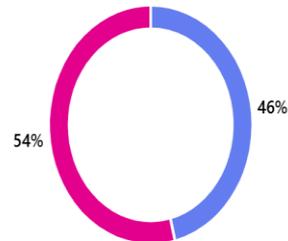


終了後に行ったアンケート結果の一部を紹介する。この他に公開授業についてのご意見もいただいております、次年度以降の授業改善に反映していきたい。

5. 本日の公開授業を見られてどうでしたか

[詳細情報](#)

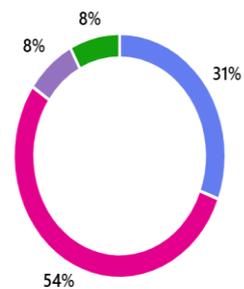
● とても参考になった	6
● 参考になった	7
● 参考にならなかった	0
● 期待していたのと違った	0
● その他	0



7. 本日の研究協議を見られてどうでしたか

[詳細情報](#)

● とても参考になった	4
● 参考になった	7
● 参考にならなかった	0
● 期待していたのと違った	1
● その他	1



8. 具体的に良かったところ、悪かったところをあればご入力ください。

7 応答

ID ↑	名前	回答
1	anonymous	名古屋西の学校全体としての取り組みの成果が分かった。
2	anonymous	本日の授業の改善点やこれまでの研究過程での具体的な課題等を共有することで、より有意義な時間とすることができるのではないのでしょうか。
3	anonymous	様々な教科の先生方の授業におけるポイント等をお話いただき、理解が深まりました。
4	anonymous	少し時間が少ないように感じました。どの研究協議でも感じていることですが、可能であれば授業で行っているように、teamsやforms等であらかじめ質問や意見を集約してその質問に答える形でも良いと感じました。
5	anonymous	授業をした先生方のコメントを直接聞くことができよかったです。
6	anonymous	去年より改善されていた。
7	anonymous	どの教科もそれぞれの課題をもちながらICTを効果的に利用することで、教科横断的な授業改善に取り組んでいる姿を感じることができました。

次に、公開授業後の研究協議会における質疑応答を示す。

Q 1

普段の授業の雰囲気で、ということで、数学の先生が「近くでどうぞ」というと、生徒が集まる。生徒が自分たちで話し出す雰囲気づくりにするために気にかけていることはあるのか。また、数学的意味や根拠は何だろう。ということだったと思うが、オープンエンドなアプローチを行う際に、生徒に気付いてほしいものを先生は自身にもっているか。

A 1

今年は生徒を当てるのをやめようと思って実践を行っている。
授業中に指名されるのがトラウマで参加できないという問題を解決したいと考えていた。そのため、年度の授業の最初で、話し合いの練習をさせた。半分はオープンエンドにしたい。

Q 2

スマホを授業で使用することでの問題点や課題・影響。どこまで教員が研修を受けて、お互いに共有して授業を作っているか。学校として生成AIを使わせてよいのか。そして、生徒から先生へフィードバックを得ているか。以上3点についてお尋ねしたい。

A 2

1点目について。「スタディサプリ English」はスマホでログインして行う。学習成績は、例年よりは模試の結果が一段階高いので、「スタディサプリ English」の効果なのか、他の要因によるものなのかはわからない。よくない使用についての対応については、机間指導しかないと感じている。授業のはじめでの声掛けで対応するなど対応は必要。

2点目について。生成AIについて使用し始めたきっかけは、他校の授業で「コパイロット」の使用を見たため。思考のために、AIと対話するのが新鮮で挑戦した。生成AIの解答は必ずしも正しくはないため、それに注意しながら使うように注意はしている。

3点目について。授業の終わりにアンケートを実施したこともある。

Q 3

生成AIは使用してよいのか

A 3

生成AIを使用するための条件や注意等を確認するための書類を提出して、使用可能としている。学校全体としての研修は行っていない。

そして、最後に以下のようなご指導・ご助言をいただいた。

大石先生より

- ・昨年度より研究会に参加。私自身も「探究とはなにか」をテーマにして考えを深めているところ。
- ・オリジナルのアウトプットというのを大事にいただいているのを感じる。
- ・名古屋西高校では、「生徒同士で話し合いをなさい」という先生からの指示がすぐに通ってゆく。対話できるというのは探究の中でとても大切な過程であると考えている。その力がしっかり育っている学校と感じる。
- ・各教科で、探究の部分を担っていくことで、「総合的な探究の時間」でその集合した力が生きてくるのではないかと考えている。それが高校の探究で目指すところではないか。
- ・生徒が自分たちだけで考えを表現しにくい学校においても、組織的に探究の力をつけていくというイメージで、オリジナルのアウトプットを増やしていただけるとよいのではないかと考えている。

天羽先生より

- ・スマートフォンやマイクロソフトアプリが使用できている状況を見ると、初期の環境整備がうまくいっていると見える。
- ・加賀先生の授業では画像を見せていたが、画像を見せると生徒の思考は固定されてしまうので、ICTを使って画像を見せたりするタイミングはどこが良いかと考えることは、とても大切だと考えている。

稲山先生より

- ・主体的・対話的な授業のために、地歴公民科では発問が大切だとされている。生徒にどんな力を身に付けさせたいのかを考えながら発問を考えるのは、難しいところ。
- ・例えば、バスの運転手の仕事の授業を行うとして、「バスの運転手さんの仕事は何か」ではなく、「バスの運転手さんは何を見ているか」という発問にする。それだけで授業は変わる。

加藤先生より

- ・「深い学び」のためには、「アウトプット」が大切だと思っている。家庭科では、キャッチフレーズで授業をまとめようとしていたり、保健では一番伝えたいところをまとめようとしていたり、アウトプットにうまく結びつけることができていた。
- ・先生方は健康に留意していただきながら授業研究をしていただきたい、と思う。

5 研究成果と課題

(1) 研究成果

2年間、推進委員の先生方が大変意欲的に本事業に取り組み、授業が大いに改善された点が成果として挙げられる。令和6年度に「そもそも探究とは」、「授業に探究的要因を組み込むためにどうすればよいか」などの根本的な疑問から始まった本事業であったが、推進委員会での情報交換やディスカッション、大石教授らの御助言を踏まえて授業改善に向けて取り組んでいくうちに、探究学習の要素である、「問い立て→考察→オリジナルな成果物の発表」、というプロセス、あるいはその一部の要素を授業の中に組み込むことができるようになってきた。また、少しずつではあるが、生徒同士がお互いに話しあうことができるようになってきたことも成果と言える。他の人からの意見、批判がないと「探究」が深まらないため、これからの社会を生きていく生徒にとっては貴重なスキルが身に付きつつあると言えるであろう。このことは大石教授のコメントからも伺える。また、推進委員の何人かの先生も、生徒同士で取り組んだ部分のほうが、教師が説明した部分よりも定着がよいことがあったという報告をしている。

この一連の取り組みの中で、ICTの活用が当たり前のものになってきた印象もあり、昨年度当初に掲げた目標に一步步近づいている感触を得ており、今後さらに効果的にICTを活用できるようになるものと期待できる。また、昨年度ほとんど取り組めなかった「個別最適な学び」について取り組んだ推進委員の先生もいらっしゃり、一定の成果をあげたと報告されている。この点も今年度の成果として述べておきたい。

(2) 課題

昨年度の課題として、生徒が問い立てをできるようにすることと授業が探究的になっているかをいかにして評価するかということが挙げられた。この2点については具体的な解決に至っていないが、生徒が自ら問いを立てる際に生成AIを活用させることも一考の価値があり、自らの授業が探究的になっているかどうかの検証には、生徒へのアンケート等を工夫することで評価の一助とでき

るものとする。

最後の推進委員会では、「批判的に教材を読む」「教科横断」などが今後のキーワードとして挙げられた。推進事業は今年度で終わりになるが、推進委員の先生方がこれらのキーワードを今後の授業改善に活かしていただくことを願う。

6 今後に向けて

今年度は国語、地歴公民、数学、理科、保健体育、英語、家庭の7教科に絞って推進委員を募り、推進委員の数も増やし、約4分の1の先生方に委員を務めていただいた。前述のように、推進委員の先生方は着実に授業改善が進んでいる。学校全体の教育力を上げ、生徒の自己実現につなげていくためには、さらに多くの先生方を巻き込む必要があると考え、教科主任者会議や職員会議などで推進委員会の報告を行った。最後の推進委員会では、「批判的に教材を読む」「教科横断」などが今後のキーワードとして挙げられた。先生方が2年間の主管校の経験を今後を活かし、さらに各自の授業改善を図り、生徒の力を伸ばすこと、そして勤務校の教育力向上に貢献できることを期待する。

※ 本研究報告書は、令和8年3月23日までに県教育委員会に提出する。